

# 西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第314号 平成11年2月



『久留和海岸より望む富士』 石田信彦

## 目次

	頁		頁
1. 新年賀詞交歓会	広報部 … 2	6. 地区だより	
2. 理事会報告	広報部 … 6	あきる野地区	樋口昭夫 … 18
3. 要介護認定等モデル事業に 関する問題点について	広報部 … 11	7. 同好会短信	
4. 会員通知・医師会の動き	事務局 … 14	ワイン愛好会	田村啓彦 … 18
5. 各部だより		8. クローズアップ	広報部 … 19
学術インフォメーション	学術部 … 16	9. お知らせ・訃報	事務局 … 20
		10. 表紙のことば	石田信彦 … 21
		11. あとがき	高水松夫 … 21

平成11年

## 「西多摩医師会新年賀詞交歓会」

平成11年1月23日(土) 午後6時より、青梅市福祉センター「ふよう」で、恒例の西多摩医師会新年賀詞交歓会が行われました。

別表の通り、国会議員、都議会議員、各市町村長、保健所長、警察署・消防署・労基署の各署長、歯科医師会・薬剤師会・接骨師会の各会長、医師会関係者など各方面の御来賓の方々と医師会会員が多数出席し大盛会でした。

賀詞交歓会は、片平理事の司会のもと、宮川会長の開会の辞で始まりました。続いて、都議会議員代表として野村有信都議、市町村長代表として田中雅夫あきる野市長が来賓挨拶を述べられました。

司会者が御来賓の方々を紹介したあと、赤穂 保多摩川保健所長の発声で祝盃が挙げられ、祝宴が始まりました。

ギター・バンジョーの織りなす妙なる調べに包まれ、会場のあちらこちらに歓談の輪が出来、晩餐を楽しみながら親交が深められました。

恒例のビンゴゲームでは、1等ポータブルテレビを片平理事が、2等羽毛布団を三浦会員が手にし、葉山 裕西多摩歯科医師会副会長、大館 誉奥多摩町長も趣向をこらした上位景品を当てられ、会場は沸き返りました。

和やかな雰囲気の中に、松原監事による手じめと大堀副会長の閉会の辞で御開きとなりました。

(広報部)

## 御来賓出席者名簿 (敬称略)

団体役職名	氏名	団体役職名	氏名
衆議院議員	石川 要三	福生警察署長代理	森谷 政明 (刑事課長)
都議会議員	田村 市郎	五日市警察署長代理	岡田 勲 (刑事課長)
都議会議員	野村 有信	青梅消防署長	小谷 正行
都議会議員	島田 久	福生消防署長	多田 旭
青梅市長代理	新井 明夫 (助役)	秋川消防署長	下重 佐登美
福生市長	石川 彌八郎	奥多摩消防署長	和澤 輝満
羽村市長代理	山本 正吾 (助役)	青梅労働基準監督署長	中山 滋
あきる野市長	田中 雅夫	西多摩歯科医師会長代理	葉山 裕 (副会長)
日の出町長	青木 國太郎	西多摩薬剤師会長代理	武田 昌實 (副会長)
奥多摩町長	大館 誉	西多摩接骨師会長	鳴澤 功次
檜原村長	鈴木 陸実	青梅労働基準協会	大山 文男
多摩川保健所長	赤穂 保	顧問弁護士	鈴木 禧八
秋川保健所長	飯塚 啓介		



開会あいさつ 宮川会長



野村有信都議



田中雅夫あさる野市長

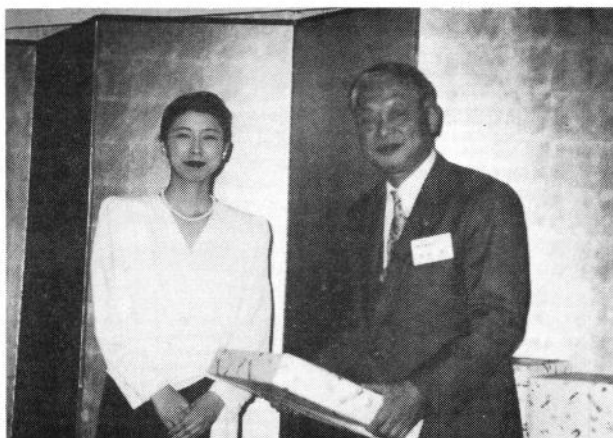


乾杯の音頭 赤穂 保多摩川保健所長





アトラクション ギター・バンジューの演奏



ビンゴ 大館 誉奥多摩町長



ビンゴ等 片平理事





手じめ 松原監事



閉会あいさつ 大堀副会長

**理事会報告**

★ Information

1月定例理事会

平成11年1月26日

西多摩医師会館

## 【1】 報告事項

## (I) 都医地区医師会長協議会報告

(宮川会長)

## 1. 都医からの伝達事項

## (1) 地域振興券交付事業について

各医療機関はこの事業に参加する場合、医師会が一括して登録するように願いたい。

## (2) 第25回日本医学会総会登録推進について

現在西多摩は49.1%の登録達成率であり、100%へ向けて、もう少し登録を進めてもらいたい。

## (3) 第25回日本医学会総会医学展示博覧会について

患者や家族の方々へのPRをお願いしたい。

## (4) 平成9年度生涯教育制度集計結果の概要及び修了証について

集計結果の概要を参考にして、今年度も申告率のアップに協力してもらいたい。

## (5) 平成11年度より発足を予定している新救急医療体制「休日・全夜間診療事業（仮称）」の実施に伴う救急医療機関の参画意向確認並びに推薦について

地区医師会でまとめて推薦してもらいたい。

## (6) 最近の救急出場件数の急増に伴う救急患者の受け入れについて

流感の発生により救急患者は是非地区内で受け入れられるよう協力してもらいたい。

## (7) 自賠償診療報酬の新基準に関する講習会の開催について

2月19日2～4PM、明治神宮会館にて行う。

## (8) 「医療機関のためのわかりやすい労災保険」図書の配布について

図書を配布するので参考にして下さい。

## (9) 地区医師会調査担当理事連絡会開催について

2月25日開催予定である。

## (10) 病床過剰地域における診療所の療養型病床群の整備のための算定数について

- (11) 都内衛生検査所に対する精度管理調査（ブラインド方式）実施に伴う協力医療機関調査について  
地区医師会で協力して頂きたい。
- (12) 老人保健施設設置状況について  
60施設となる。
- (13) 医療福祉審議会報告書「薬剤給付の在り方について」の送付について  
日医は日本型参照価格制度に反対している。
- (14) 国保診療報酬請求書等の編綴方法（病院）変更について  
元総合病院の場合、変更になる。
- (15) 平成10年度要介護認定等モデル事業に関する問題点について  
詳細別掲。
- (16) 訪問看護ステーション設置状況について  
240施設。
- (17) 在宅介護支援センター設置状況について  
170ヶ所。

## 2. 協議事項

なし

## 3. 地区医師会からの報告

- (1) 八王子地域産業保健センターのホームページについて（八王子市医師会）

## 4. その他

- (1) 東京の精神保健福祉について

## (II) 地区医師会学校医担当理事連絡会報告 （星野理事）

- 1月13日開催、(1)平成10年度学校保健・学校医に関するアンケート調査結果の概要  
(2)学校において予防すべき感染症  
(3)輸入感染症 などについて

## (III) 地区医師会病院救急担当理事連絡会報告 （坂本理事）

1月18日開催

### 1. 東京都救急医療対策協議会報告の概要

- (1) 救急体制の見直し。「休日・夜間診療事業（仮称）」  
救急搬送件数の増大に対応する改正。  
◎初期救急 休日夜間→365日、夜間（輪番制）

◎二次救急 休日夜間→休日、全夜間、24時間（固定制）

◎三次救急 365日、24時間（従来通り）

(2) 二次、三次救急医療機関の条件

◎診療を断らない、搬入が容易、救命処置が可能。

◎内科、外科系医師、看護婦の確保 オンコールは不可。

◎検査技師、放射線技師はオンコールも可。

◎常に3床確保。

(3) 具体的な整備

◎都内二次救急医療機関 410→232（1/5.8万人、西多摩で7）施設に絞る。

地区医師会長が推薦。過去実績を参照。年間実績報告義務も。2/5 締切。

◎都内三次救急医療機関 救命救急センター（国）16

救急センター（都）5

※これらを合わせてほぼ250施設が指定されることになる。

※格差是正のため“救命救急センター”に統一。

(4) 施設間連携の推進

◎初期 → 二次 → 三次、三次 → 二次 → 初期

患者の速やかな後方移送で救急収容と空床準備を確保する。

(5) 補助金、診療報酬などの改善

2. 問題点

(1) 初期 → 三次の連携（紹介、逆紹介）は現実的に難しい面もある。

(2) 患者の選択を抑制出来るか（大病院集中傾向）。

(3) 内科系、外科系含めて1名でよい。対応可能か？。

(4) オンコール体制（勤務と見做す）の人件費の補助がない。

(IV) 多摩地区医師会介護保健担当理事連絡会報告

（玉木理事）

1月20日、北多摩医師会館にて開催。各地区の取り組みの報告と今後の運営などにつき検討された。

(V) クリスマス会会計報告

（片平理事）

(VI) 各部報告

（担当部長）

（病院） 病院部委員会委員の依頼と推薦について。

（学術） 2月20日、第4回パネルディスカッション「糖尿病」を開催する。

（総務） 各会員の伝達事項につきファックス化を進める。経費節約にも有効。



## (VII) 各地区会よりの報告

(各地区長)

- (青 梅) 西多摩杏林納税貯蓄組合および固定資産税減免の件について。  
 (福 出) 2月に新年会予定。  
 (羽 村) 1月19日、新年会開催。  
 (あきる野) 1月18日、新年会開催。ポリオ・BCGの個別化などにつき検討。  
 (瑞 穂) 特になし。  
 (日の出) ”

## 【2】 報告承認事項

## (I) 入会会員について

— 承認 —

## (II) 結核診査協議会、大気汚染障害者認定審査会委員の推薦について

## 1. 結核診査協議会委員

- 坂 本 保 巳 (青梅市立総合病院)  
 松 原 弘 明 (福生病院)  
 片 平 潤 一 (片平医院)

## 2. 大気汚染障害者認定審査会委員

- 松 原 貞 一 (松原内科医院)  
 大 堀 洋 一 (大堀医院)  
 横 田 博 (横田小児科医院)  
 林 良 樹 (青梅市立総合病院)  
 佐 野 茂 雄 (阿伎留病院)

\*各任期は2年です。

## (III) 平成11年度あきる野市立小中学校医の推薦について

## 《小学校》

- 東秋留小学校 下 村 禎 先生  
 多西小学校 瀬戸岡 俊一郎 先生  
 西秋留小学校 近 藤 之 暢 先生  
 屋城小学校 星 野 誠 先生  
 南秋留小学校 植 田 稔 先生  
 草花小学校 伊 藤 敬 一 先生  
 一の谷小学校 葉 山 侃 先生  
 前田小学校 斎 藤 信 幸 先生  
 増戸小学校 田 中 映 吾 先生  
 五日市小学校 鈴 木 道 彦 先生  
 戸倉小学校 池 谷 敏 郎 先生  
 小宮小学校 池 谷 敏 郎 先生

## 《中学校》

- 秋多中学校 樋 口 昭 夫 先生  
 東 中 学 校 米 山 秀 雄 先生  
 西 中 学 校 秋 山 静 夫 先生  
 御堂中学校 横 田 博 先生  
 増戸中学校 栗 原 琢 磨 先生  
 五日市中学校 小 机 敏 昭 先生

## (IV) 平成11年度青梅市立小中学校医の推薦について

## 《小学校》

一 小 笹 本 隆 夫 先生  
 " 馬 場 誠 先生  
 二 小 荒 巻 武 彦 先生  
 " 細 谷 純一郎 先生  
 三 小 坂 井 也 彦 先生  
 四 小 土 田 守 一 先生  
 五 小 藤 野 淡 人 先生  
 六 小 宮 下 吉 弘 先生  
 七 小 堀 田 洋 夫 先生  
 成木小 土 田 守 一 先生  
 河辺小 成 田 章 先生  
 新町小 野 本 正 嗣 先生  
 " 大 堀 洋 一 先生  
 霞台小 市 原 靖 先生  
 友田小 小 澤 昌 彦 先生  
 今井小 唐 橋 善 雄 先生  
 若草小 足 立 卓 三 先生  
 藤橋小 百 瀬 眞一郎 先生  
 吹上小 小 林 杏 一 先生

## 《中学校》

一 中 森 本 晉 先生  
 二 中 井 上 勇之助 先生  
 三 中 鈴 木 良 亮 先生  
 西 中 江 本 虎 雄 先生  
 六 中 堀 田 洋 夫 先生  
 七 中 中 林 敬 一 先生  
 霞台中 高 野 竹 生 先生  
 吹上中 鈴 木 穆 先生  
 新町中 石 田 信 彦 先生  
 泉 中 吉 野 住 雄 先生

一 小 (眼 科) 後 藤 伸 先生  
 " (耳鼻科) 竹 内 靖 信 先生  
 二 小 (眼 科) 三 田 哲 夫 先生  
 四 小 (耳鼻科) 山 田 英 敬 先生

## (V) 新規会員年会費査定について

— 承認 —

## 【3】 協議事項

## (I) 平成11年度事業計画案提出について

次回理事会までに提出のこと。

## (II) 平成10年度第2回定時総会日程について

3月24日(水)(案)、総会までの日程を確認。

## (III) 東京都医師会代議員及び予備代議員の選挙委託について

## 要介護認定等モデル事業に関する問題点について

東京都医師会理事 天本 宏 平成11年1月18日提出

### 〈介護認定の「信頼性」、「一貫性」構築への基本的スタンス〉

コンピューター判定の精度については国レベルでの議論を今後も継続し、ソフトの改善をしてもらうとして、せめて介護認定にかかわる担当者（調査員、かかりつけ医、審査員）と、区市町村の各審査会よっての誤差は都道府県レベルで早急に解決していくべき課題である。

### 適正・公正かつ、公平（普遍性・科学性の確立）のための一定の手法と基準の構築

#### I) 一次判定において、判定結果に影響を与える因子

##### 1 コンピューター処理以前の問題

- 質問項目の妥当性についての更なる検討（質問の仕方、解釈の仕方により答えが変わってくるような質問の改善）

例えば「麻痺等の有無」、「関節の動く範囲の制限の有無」、「排便の後始末」、「理解」など

- 調査員自体の均一化
- 調査手法の統一化（聞き方の統一化を図っていくための基準化）
- 調査員の判断能力の均一化、判断基準の統一化

##### 2 コンピューター処理における課題

- 全国統一の判定基準という点では、コンピューター判定は公平と思われるが、精度・信頼度を更に高めるべきである。

#### II) 二次判定において、判定結果に影響を与える因子

- 1 かかりつけ医意見書の質の均一化（都道府県医師会レベルで解決すべき課題）
- 2 審査会運営手法の統一化
- 3 各審査会、各審査員の共通認識の確立・統一をどう図るか。

#### (1) 介護認定の評価方法について

##### 1) アセスメント項目について

- 項目の定義の共通理解が不足している。調査員間のバラツキが大きすぎる。
- 調査項目と調査結果との整合性が明確でない。しかも前年度判定結果と大きく変わったため、コンピューター判定そのものに不信感が強まった。調査結果と実態との乖離が著しいケースが多くみられた。認定ソフトの内容が不明確なため、「どうしてこのような結果となるのか」審査会自体にも分からないため被保険者に納得できる説明ができない。
- 痴呆症状、特別な医療の項目の部分に再検討の要あり。
- 在宅のケースと、施設入所者のケースと同一の項目では良くない項目内容がある。（たとえば「火の始末」など）
- 身長・体重の項目も必要
- 「するADL」ではなく「できるADL」を判定すべきである。

- 基本調査の調査項目と、かかりつけ医意見書の調査項目において同じ主旨の内容にもかかわらず質問形式が異なり整合性が取れない。

麻痺・拘縮について 意見書は医学的に「ある」か「なし」  
調査表は「日常生活に支障がある場合にその部位の記入」

摂取、嚥下障害について 意見書は摂取と嚥下障害が同一項目  
調査表は摂取、嚥下障害が別項目

## 2) 判定基準について

- 判定基準の詳細な記述や、具体例の提示が必要。要介護状態区分像をもっと明確にしてほしい。
- 平成10年度は、痴呆の評価が過大すぎた。(痴呆があるかないかによって一次判定結果の差が大きすぎた)
- 一次判定と、要介護区分状態像と一致しないものが多い(整合性が無い)。

## 3) 痴呆に対する判定について

- 痴呆の評価において調査員と、かかりつけ医とにおいて共通認識を図るべき。痴呆の評価基準を明確にして統一すべき。
- 調査員において聞き取り方によって評価が異なる傾向が強い。調査員間の共通認識を図るべき研修、マニュアルの作成等を徹底させていくべき。(調査員の能力向上、質の均一化のため)

## 4) その他

- 実態に即した状態像から診た変更を可能にすべきではなからうか。
- 誰からの聞き取り調査であったのかを明確にすべきである。

## (2) かかりつけ医意見書について

### 1) 意見書の位置づけについて

- 介護認定業務のための意見書なのか、ケアプランにも使用するものなのかに関して法的な位置づけを明確にする必要がある。その結果により意見書の内容を再検討する必要がある。かかりつけ医の機能からすれば当然ケアプランにも有効なものとしていくべきであろう。
- 記載事項が多いわりに介護認定においては利用価値が高くなかった。調査員による聞き込み調査と専門家によるダブルチェックシステムは重要とは思われるが調査員の資質向上、マニュアル化の徹底によりかかりつけ医意見書はかなり簡略化できるのではなからうか。そして不服申請の際のみ再調査はダブルチェックシステムで行えば良いのではなからうか。

### 2) 意見書の項目について

- 麻痺、拘縮、摂取と嚥下障害等の項目において調査員の調査表と、かかりつけ医意見書の項目とでの表現の相違が見られた。統一すべきである。
- 意見書の最終診察日の規定を明確にすべきである(一ヶ月以内の診察を必要とするとか)。介護認定の時、一次判定において調査員が調査するように、二次判定に必要な意見書もこの意見書の作成のための特別な診察を義務づけることを制度化すべきである。

### 3) 「特別な医療」について

- 介護者が行っている医療処置は意外と多く、この処置に携わる介護者の行為を介護認

定に反映させるべきである。

- 実際に看護婦がやっているかどうかではなく、看護婦の業務独占の領域の業務を必要としているかを評価し、「この人にどれくらい医療処置が必要なのか」を評価し介護度を認定していくべきである。
- 特別な医療の内容が看護処置に片寄りすぎており、リハビリテーションも入れるべきではなからうか。(機能訓練の必要性についての項目が無い)
- 吸引、筋肉注射(インシュリン等)など家族が行っている行為も評価すべきである。
- 膀胱ろう、採尿バック等の処置も評価すべきである。

4) 意見書の記入マニュアルについて

- 特記事項についてのマニュアルが必要である。見本となる事例集。
- ケアプランに関する意見が書けるようなマニュアルの作成が急務。

5) その他

- 介護面からの、生活者への視点により書かれている意見書が少なかった。
- 日常生活状況の把握、介護状況の把握について医師があまりにも無関心なため意見書に記載されていないことが多かった。
- 無記入の項目の場合、該当なしなのか、記入漏れなのか、不明なのか判断しかねた。「無し」、「不明」の項を作るべき。

(3) 介護認定審査会及び委員について

1) 介護認定審査会の位置づけについて

- 保険者は早急に必要な審査会の数を示し、医師会として用意すべき審査員の数を示すべきである。審査員の養成のために。

2) 介護認定審査会の委員構成について

3) 訪問調査員の資質について

4) その他

- 認定審査会への協力のための人(会員)、時間、回数、労力が地区医師会にとってあまりにも負担(拘束)となりすぎである。これからは地域医療への業務が増えるのに、現実的に介護認定業務にまで手は回らないのではなからうか。
- シバリが多くなり、審査における変更の可能性が非常に狭く審査員からの不満が非常に多かった。二次判定は定性的判断であり、もっと審査会に裁量権を委ねるべきではなからうか。

(4) その他

1) 介護度状態区分変更等事例集の問題点と有用性について

2) その他

- モデル事業一回で、即本番は困難である。
- 平成10年度のモデル事業の結果では検証されたとはいえ、本番までにコンピューター処理の修正に伴う検証の機会が必要である。
- 介護認定結果にもとづく介護給付の支給限度額と、実際のサービスとの整合性についての検証が必要である。
- ケアプラン作成の際のサービス担当者会議の検証、ケアプランが有効かどうかの検証が欠けている。

## 会員通知

- 組合管掌の健康保険被保険者証の更新について
- 東京大学産業医研修会の案内
- 学術講演会
- 平成10年度第4回基本健康診査従事者講習会（成人病検診従事者講習会）の実施について
- 平成10年度第2回胃がん検診読影従事者講習会の実施について
- 特別区・市町村、国民健康保険並びに国民健康保険組合の被保険者証の更新について
- ポスター（親、乳、福、障医療証をお持ちの方へ）
- 学術講演会
- //
- ターミナルケア研修会の案内
- 老人保健施設開設計画に関する説明会の開催について
- 順天堂大学医師会産業医研修会案内

## 医師会の動き

医療機関数	190	病院	29
		医院・診療所	161
会員数	404	A会員	180
		B会員	224

### 会議

1月22日 在宅難病調整委員会  
 23日 新年賀詞交歓会  
 26日 定例理事会  
 // 新規医療機関指導  
 27日 会報委員会

### 講演会・その他

1月8日 整備会  
 20日 学術講演会  
 講師：青梅市立総合病院  
           消化器科部長  
           宮川八平先生  
 演題：C型慢性肝炎

25日 学術講演会  
 講師：都立府中病院  
           皮膚科医長  
           高屋道子先生  
 演題：アトピー性皮膚炎の  
           診断と治療

28日 学術講演会  
 講師：東京大学医学部  
           生体防御機能学助教授  
           丁 宗鐵先生

### 役員出張

1月7日 西多摩歯科医師会新年会  
 9日 西多摩接骨師会新年会  
 13日 自治体首長代表者との懇談会  
 11日 都医学校医担当理事連絡会  
 18日 都医救急担当理事連絡会  
 19日 生保指導立会  
 20日 第1回多摩地区医師会介護保険  
           担当理事連絡会  
 22日 都医地区医師会会長会兼懇親会  
 29日 都医学校医研修会

## 各部だより



学術部

Information



## 第4回 パネルディスカッション 『糖尿病』

テーマ「早期糖尿病」：発見、治療、管理にどう取り組むか

司会：西多摩医師会学術部部长 横田卓史

### 1 特別講演：「最近の糖尿病の診断基準と分類」

－ 糖尿病の病態との関連 －

講師：杏林大学医学部第三内科教授 石田均先生

### 2 パネルディスカッション

- (1) 「職場における早期糖尿病の現状」  
…………… 石川島播磨重工業瑞穂診療所 三輪俊博先生
- (2) 「人間ドックにおける早朝空腹時血糖－12年間の観察」  
…………… 青梅市健康センター嘱託医 石井好明先生
- (3) 「あきる野市の市民健康診査と事後フォローの現状」  
…………… あきる野市健康課保健婦 鈴木とも子様
- (4) 「早期糖尿病患者指導における看護婦の役割」  
…………… 青梅市立総合病院病棟婦長 今井まちな子様
- (5) 「早期糖尿病の開業医における取り組み方」  
…………… 高村内科クリニック 高村宏先生
- (6) 「糖尿病の段階的治療法」－ガイドライン、フローチャート策定の試み－  
…………… 青梅市立総合病院内分泌代謝科部長 原義人先生
- (7) 「私の糖尿病治療体験」  
…………… 糖尿病患者の会「もろこし会」代表 小林民雄様

日時：平成11年2月20日 PM2時～5時

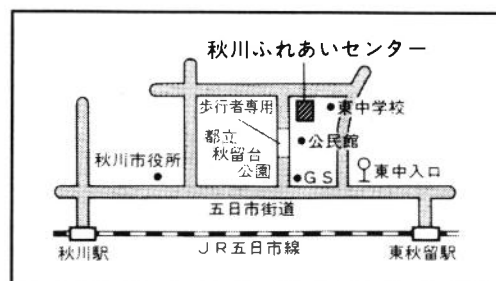
会場：秋川ふれあいセンター

主催：西多摩医師会

交通：東秋留駅より徒歩 25分

秋川駅より徒歩 30分

西東京バス「東中入口」より徒歩 7分



## 〈特別講演抄録〉

演 題：「最近の糖尿病の診断基準と分類」

－ 糖尿病の病態との関連 －

講 師：杏林大学医学部第三内科 石 田 均 先生

糖尿病患者は全国で約700万人に達すると推定されている。糖尿病の成因としてインスリン分泌不全とインスリン抵抗性が関与しているが、日本人ではグルコースに対するインスリンの初期分泌の低下が認められることから、インスリン分泌不全型が多いと考えられる。したがって元々膵β細胞が遺伝的に脆弱なところに、とくに近年になり過食、肥満、運動不足、ストレスなどインスリン抵抗性を増加させる種々の要因が加わって、糖尿病が発症する。日本人の糖尿病の特徴としては、①グルコース刺激に対する膵β細胞のインスリン分泌予備能が少ない。②軽度のインスリン抵抗性が加わっただけで糖尿病が発症する。③高度の肥満症例が少ない。裏返せば高度肥満になる前に糖尿病が発症してしまう。④肥満が軽度であっても、内臓肥満型の人が多い。つまりあまり肥満していなくても、意外とインスリン抵抗性が強い。⑤血糖値があまり高くなくても、細小血管障害が進みやすい点などがある。したがって糖尿病治療の際には、脆弱な膵β細胞に対し余計な負担を与えずに、細く長くうまく大事に使っていくことが重要である。治療方針としては、なるべく早い時期から膵β細胞の疲弊を起こさないように心がけ、患者の病態に応じてα-グルコシダーゼ阻害剤、少量のSU剤、ビグアナイド剤（肥満例）投与を考える。昨秋の欧州糖尿病学会においてイギリスで行われた大規模臨床試験の UKPDS (United Kingdom Prospective Diabetes Study) の結果、血糖値と血圧をともに厳格にコントロールすると、細小血管症や心筋梗塞などの合併症が明らかに抑制される事実が示された。また一昨年には、米国糖尿病学会で糖尿病診断基準が見直され、糖尿病の症状があつて随時血糖値が200mg/dl 以上の場合や、糖尿病の症状がなくても空腹時血糖値が126mg/dl 以上の場合には糖尿病として診断することとなった。空腹時血糖値が110～125mg/dl の場合には IFG (Impaired Fasting Glucose) という呼称が新たに提唱され、いわば糖尿病予備軍として位置付けられている。すなわち発症早期から糖尿病と診断し得る方向に動いていると言える。分類に関しても、病態から病因別へと変更がなされ、とくに遺伝子異常もその他の特殊型として列挙されている。現在わが国においても、日本糖尿病学会で診断基準の見直しが行われている。



## 地区だより

### あきる野地区

## 介護保険講演会報告

1月27日(水)午後7時30分より、あきる野市のふれあいセンター大会議室にて、あきる野市医師会主催による介護保険講演会が開催されました。平成12年度よりの介護保険の開始を目前に控え、あきる野地区医師会の定例会で何度か勉強会も開いてきましたが、今回は、介護保険問題に造詣の深い八王子の永生病院の安藤高朗院長を講師にお迎えして介護保険について講演を行っていただきました。医師会会員だけでなく市役所の福祉関係の職員の方々も参加され50名近い出席者が集まった大盛会でした。

あきる野市医師会の学術担当の瀬戸岡先生の司会により安藤先生の紹介が行われ講演会が始まりました。50ページに及ぶプリントの資料とスライドでの解説で1時間半にわたって詳細かつ非常にわかりやすく講演をしていただきました。先ず、介護保険制度の概要について、制度創設の背景から制度の概要について、実際に利用する場合の申請から調査、

認定、サービスの提供までの流れについて、保険給付の種類とサービス内容について、施設と在宅のサービスの平均利用額(6万円～46万円)、かかりつけ医意見書の単価予想(4千円～5千円)について、療養型病床群の設置基準について、介護保険におけるかかりつけ医の役割や長期ケアにおける医師の役割について、介護保険と医療保険の相違点について、介護保険の残された課題について(一次判定と二次判定の食い違いについて具体的な症例で問題提起された)、介護保険と医療保険の在宅及び施設サービスでの給付の具体的な区分について、一般クリニックにおいて介護保険のメリット、デメリットについて、介護保険の問題点について、といった内容の講演で、介護保険の全体像や問題点がよく理解できました。講演の後出席者よりの質問が活発に出され質疑応答のあと、小机会長より御礼と挨拶があり講演会は終了しました。(樋口昭夫)

## 同好会短信

### ワイン愛好会だより

去る1月8日、恒例のワインパーティーが福生の「遊」で開かれました。各自が気に入ったワインを持ち寄り、オーナー自慢の山菜を食材としたヘルシーな家庭料理で、いつものように大いに盛り上がりました。今回の目玉は、尾形先生がイタリアで入手され、埃まみれのまま懐に抱えて持ち帰られたという1967年の赤ワインで、保存も良く最高の味わいで、ワイン好きにとってはまさに饒幸の一夜でした。(田村)



# クローズアップ

## 西村邦康先生 都知事感謝状



多摩地域監察医務検案業務に関する西村先生の業績が高く評価され、平成11年1月21日都庁にて都知事感謝状が贈呈されました。

西村先生は、25年以上検案業務に従事され、献身的に活動を続けてこられました。

## 植田 稔先生 医療功労賞都表彰



檜原村を中心に山間部の精神障害者の早期発見と早期治療、その社会復帰に30年前より従事され、延べ40万人の診療・治療に貢献してこられた功績により表彰されました。



# お知らせ

## 事務局より お知らせ

平成11年3月（2月診療分）の

保険請求書類提出日

**3月8日（月）**

—— 正午迄です。 ——

## 法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽にご相談下さい。

- ◎ 相談日 2月は10日（水）  
3月は10日（水）の予定です。
  - ◎ 場所 西多摩医師会館和室
  - ◎ 内容 医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、刑事に関するどのようなものでも結構です。
  - ◎ 相談料 無料（但し相談を超える場合は別途）
  - ◎ 申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
- （注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

## 訃報

安井八重様（79歳）

福生市福生 699-3

セザイ皮膚科クリニック

瀬在 由美子 先生

（ご母堂様）

去る1月26日逝去されました。

謹んでお悔み申し上げます。



## 表紙のこぼ

## 『久留和海岸より望む富士』

実家のある葉山に帰省した折に、葉山御用邸の少し先の久留和海岸というところから早朝に写した写真です。相模湾をとりし、伊豆半島にどっしりと構えた富士に思わずみとれシャッターを切りました。

石田信彦

## あとがき

私の診療所では、昨年の12月の中頃から、インフルエンザらしき症状を訴える患者さんが出てきました。1月に入ると多数来院するようになり大変辛いようです。最近の報告では自分に接種したワクチンの型が流行しているそうです。

来年の型の予想も当たるといいですね。

高水松夫

社団法人 西多摩医師会

平成11年2月1日発行

会長 宮川栄次 〒198-0044 東京都青梅市西分3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 神尾重則

石井好明 片平潤一 清水佐和道 高水松夫

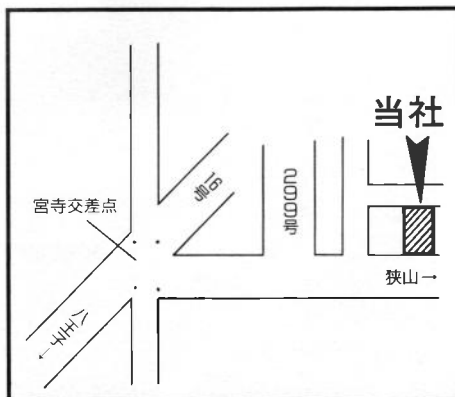
田村啓彦 樋口昭夫 横田卓史

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

# 健康と未来をみつめて!!

医療機関における各種検査、学校、事業所の検診

御利用の際は御連絡下さい



埼玉県登録衛生検査所

## 武蔵臨床検査所

所長 杉田 富徳

埼玉県入間市上藤沢309-8

TEL 0429 (64) 2621

FAX 0429 (64) 6659

# 健康の輝きをひろげる。



BML

株式会社 **ビー・エム・エル**

本社・〒166 東京都杉並区高円寺南1-34-5 TEL.03-3316-0111(大代表)  
総合研究所・〒350 埼玉県川崎市磯部1361-1 TEL.0492-32-0111(代)

最新のテクノロジーが計測します  
そして、人の眼と心が記録します



臨床検査のパイオニア

## 保健科学研究所

本 社 〒240 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 TEL/045-333-1661(大代表)  
仙 台 支 社 〒983 仙台市宮城野区栗町1-3-5 TEL/022-236-9345(大代表)